

第7回与謝野町産業振興会議 会議報告書

日 時 令和6年12月12日(木)午後3時00分～午後5時00分

会 場 岩滝保健センター2階 会議室1、2

出 席(敬称略)

佐々木 由美子	岩西 拓男	小林 厚美	青木 一博
小山 大介	長島 由昇	三神 淳弥	真柴 好雄

欠 席(敬称略)

松田 政一	堀井 健司	宮崎 輝彦	砂後 隆正
河邊 輝王	戸田 健太郎	太田 桂史	小谷 優衣
濱田 祐太			

事務局

産業観光課 市田課長	同 井上係長	同 糸井主査	農林環境課 田中主任
社会教育課 井崎係長	商工会 佐々木支援員		

傍聴者 3名

<会議要旨>

1. 開会

2. 挨拶(長島会長)

地産地消調査事業については、当会議からの提案から生まれた事業であり今後の地域内経済循環の重要な取組みとなるため、しっかり学んでいきたい。

3. 議事

(1)前回の振り返り(事務局説明)

- インターンシップ関連事業の中身について議論。

9/9の「インターンシップ事前セミナー」、11/16の「与謝野オモロイ企業多いのなあぜなあぜマッチング交流イベント」について報告。

- 10/2 振興会議番外編として高校魅力化事業について意見交換を実施。

(2)令和 6 年度産業振興関連事業の進捗状況について

- 配布資料①参照

(3)地産地消調査事業の概要説明及び進捗状況の共有について(配布資料②参照)

- 京都橘大学小山委員、学生から概要説明
- 物価高騰、物流など今後の世界情勢を鑑みても、いつまで供給できるか不明であるため、今後、地域内経済循環の重要性が問われる。
- 食品残渣問題や課題解決に向けて調査・聞き取り中。来年に成果報告書をもって共有したい。

(4)その他

- 景況レポートやハローワーク業務取扱状況等をもとに

「来年度以降の振興会議議論テーマ」について意見交換。

事務局

- ・全体的な景気は緩やかな回復基調にあるものの、業種や地域によってはばらつきが見られる。
- ・丹後地域では、製造業を中心に緩やかな回復傾向が見られ、コロナ禍の影響が残る中、業種による差が顕著である。
- ・特に、観光関連産業(宿泊業や飲食業)は、訪日観光客の増加により業績改善が進んでいる。しかし、労働力不足が深刻化しており、サービスの安定供給に課題がある。
- ・繊維産業(特に丹後ちりめん)は、和装需要の低迷や国内市場の縮小、コロナの影響を受け、生産量が減少している。(令和5年度丹後織物業の景況・動向調査報告書参照)
- 一方、異業種への転換を図る企業もあり、新素材やライフスタイル関連商品の開発が進んでいる。
- ・来年度の第8期振興会議では、「観光関連産業」をテーマとして議論を行うのはどうか。

各委員

- ・当町は圧倒的に宿泊場所が少ない。
- ・阿蘇ベイエリアの活用(特にグランドゴルフ場所の利活用)
- ・当町は観光に弱いイメージがあり、そもそも観光をテーマにすることが適正なのか…。
- ・製造業は厳しい状況は続いている。
- ・資材高騰等で住宅事業が低迷しており、建設業が心配。
- ・奨学金補助の検討もしていく必要がある。(インターンシップや移住定住につながる)
- ・観光業が回復傾向の中、価格転嫁等インバウンドを上手く取り込んでいる企業はある。
- ・価格転嫁等、実際に行動にうつすにはパワーもお金も必要であるため、行政支援が必要な部分もある。
- ・飲食業を営む中で、原材料高騰や賃金 UP の影響から価格転嫁に踏み込みたいが、町内経済が弱いため中々踏み込めない現状がある。
➡売上につながらない。➡人手不足であるが雇用できない。

4. 閉会